

平成30年5月25日
四国電力株式会社

伊方発電所における使用済燃料乾式貯蔵施設の設置に係る国への申請および 安全協定に基づく愛媛県・伊方町への事前協議の申し入れについて

当社は、伊方発電所の使用済燃料貯蔵対策として、発電所の敷地内に乾式貯蔵施設を設置することで検討を進めてまいりました。

(平成28年12月26日 お知らせ済み)

このたび、使用済燃料乾式貯蔵施設の計画内容がまとまったことから、本日、当該施設の設置に係る原子炉設置変更許可申請書を原子力規制委員会へ提出いたしました。

また、本日、国への申請に伴い、愛媛県・伊方町に対し、安全協定に基づく事前協議の申し入れを行いました。

乾式貯蔵施設は、伊方発電所で発生した使用済燃料を青森県六ヶ所村の再処理工場へ搬出するまでの間、一時的に貯蔵する施設として発電所の敷地内に設置するものであり、使用済燃料の冷却に水や電源を使用しない安全性に優れた施設です。

当社は、2023年度の運用開始を目指して、乾式貯蔵施設の設置に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

(参考) 乾式貯蔵施設の概要について

以上

乾式貯蔵施設の概要について

1. 設置目的

伊方発電所で発生した使用済燃料を再処理工場へ搬出するまでの間、一時的に貯蔵する施設として、伊方発電所の敷地内に使用済燃料乾式貯蔵施設を設置いたします。

2. 運用開始時期

2023年度からの運用開始を予定しています。

3. 施設内容

乾式貯蔵施設は、乾式貯蔵建屋と乾式キャスクから構成しており、使用済燃料の冷却に水や電源を使用しない、安全性に優れた貯蔵方式です。

(1) 乾式貯蔵建屋 (図-1 参照)

| 項目 | 計画 |
|------|---|
| 規模 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 棟 (鉄筋コンクリート造り) ・ 東西：約 40 m、南北：約 60 m、高さ：約 20 m |
| 貯蔵容量 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料集合体で約 1,200 体規模* (乾式キャスクで 45 基分) |

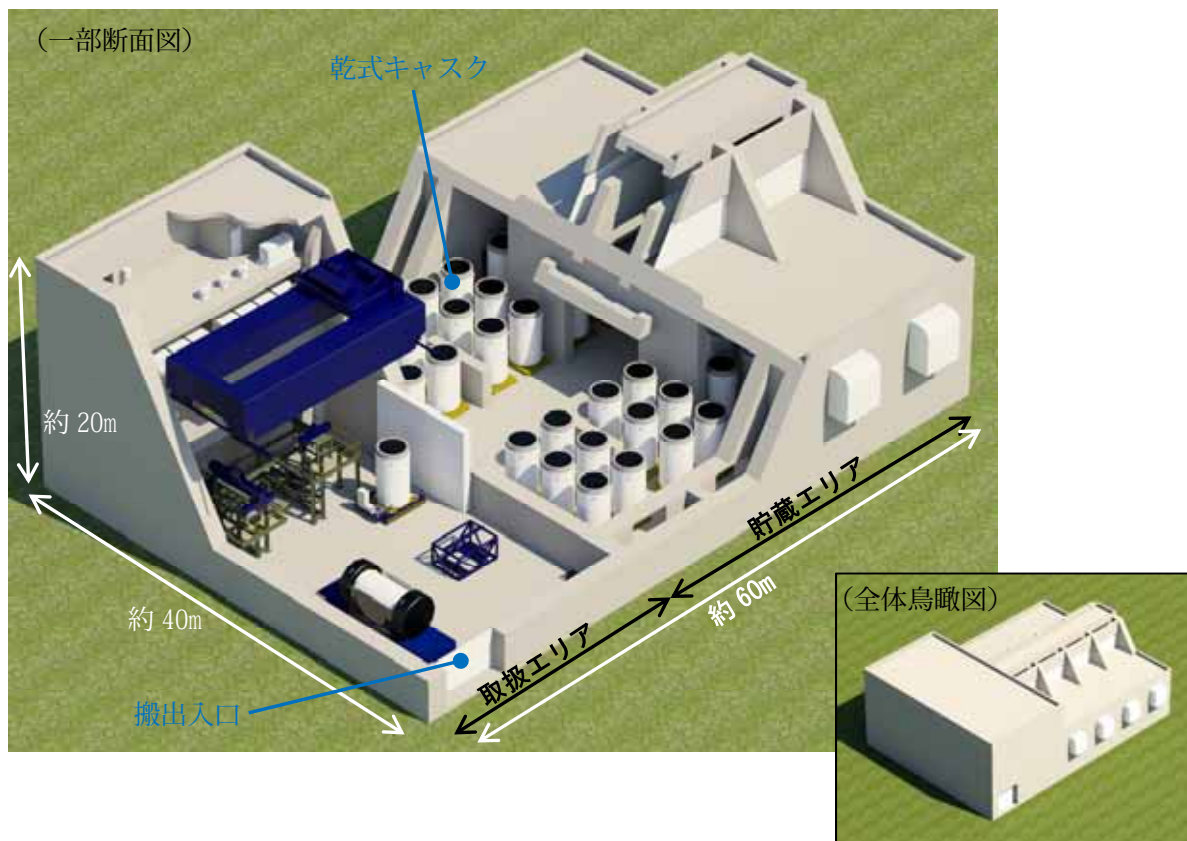
* 使用済燃料に含まれる金属ウラン量としては、500トン・ウラン規模

(2) 乾式キャスク (図-2 参照)

乾式キャスクは、4つの安全機能 (閉じ込め機能、臨界防止機能、遮へい機能、除熱機能) を有し、使用済燃料を輸送容器に詰め替えることなく発電所外へ搬出することができます。(輸送・貯蔵兼用)

| 項目 | 計画 |
|------|---|
| 寸法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高さ：5.2 m、直径：2.6 m |
| 重さ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 約 120 トン (使用済燃料を収納した状態) |
| 収納体数 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用済燃料 32 体/基 (1, 2号機燃料) ・ 使用済燃料 24 体/基 (3号機燃料) |

<図- 1 > 乾式貯蔵施設のイメージ



<図- 2 > 乾式キャスクの構造

